

⑦父「お米を作るために、とても大事なものが、たくさんあるんだよ。まず、田んぼの土、お日様の光、たくさんきれいな水。そして、おいしいお米を作るために大切なのは、やわらかく土を耕す、草を取る、肥料をまく。たんぽに水を入れたり、水を止めたりなど、たくさん仕事がある。毎日、朝早くから夕方暗くなるまで、働き通して、育てるんだ。」



与「お父さん、そんなにたくさん仕事があるとは、知りませんでした。」

父「そして、ようやく秋になると、お米の取り入れができるんだよ。種まきから始めて、雨の日も、風の日も、暑い日も、毎日毎日、人の世話とお日様や水などの自然の恵みをうけて、このように、おいしいごはんがいただけるようになるんだ。」

与「お父さん、よく分かりました。」

与「いつも、お父さんはごはんがこぼれた時、拾って食べなさいと言われますね。そのわけが、よく分かりました。」



父「そうだよ。だから、一粒のごはんも、そまつにしたり、捨てたりしてはいけませんよ。感謝して、いただきますね。」

与右衛門さんと葉ちゃん、大きな声で「はい」と返事をしました。お父さんの話を、目を輝かせて聞いていた与右衛門さんは、「これからは、もつと勉強して、いろいろのことを知りたい」と、思いました。

⑨ある日、与右衛門さんが道を歩いていると、遊んでいた男の子たちの一人が、呼び止めました。

男の子「おい、与右衛門ちゃん。おもしろいよ、見てごらん。」

与「どうしたの？」



男の子「かめを捕まえたんだ。ほら、ごらん。背中をたたくと、頭や足がへっこむんだ。」

男の子は、かめのこうらを、棒でコンコンとたたきました。

⑩かめは、出していた頭や足を、キュッと、引つ込めました。



男の子たち「わはっはっはっ、おもしろいだろう。」

与「あーっ、かわいいそ男の子たちは、おもしろそうに大声で笑いましたが、与右衛門さんは、かけよって、かめをそつと抱き上げました。

⑪与「このかめを、逃がしてやろうよ。」

男の子「いやだよ。せつかく捕まえて遊んでいるんだから。」

与「いたずらするのは、やめよう。かわいそうだ。みんなだつて、たかれたら痛いし、いやだろう。」

男「うん。それは、いやだよ。」

与「じゃあ、このかめ、逃がしてやってもいいね。」

みんな「うーん、」



男「うん。それは、いやだよ。」

与「じゃあ、このかめ、逃がしてやってもいいね。」

みんな「うーん、」

どうしよう。……仕方がないな。いいよ。与右衛門ちゃん。」

男の子「与右衛門ちゃんつて、とてもやさしいんだね。」

与右衛門さんは、かめを川の土手に、そつと放しました。

与「かめちゃん。さあ、安全な所へ行つて、遊ぶんだよ。」

⑫与右衛門さんが、九歳になった春のことです。遠い米子のお殿様につかえているおじいさんが、ふるさとの小川村に帰ってきました。おじいさんは、まごの与右衛門さんが、しっかりした子どもに育っていることに驚きました。

おじいさんは、お父さんとお母さんにこんなことを言いました。

おじいさん「与右衛門がすっかりした子になって、わしはとてもうれしく思うぞ。これからが楽しみだ。そこでだ、与右衛門を米子へ連れて行き、勉強させたいが、どうであらうか。」

お父さんとお母さんは、とても驚きました。おじいさんは、与右衛門さんにもすすめました。

おじいさん



お父さんとお母さんは、とても驚きました。おじいさんは、与右衛門さんにもすすめました。

おじいさん